

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.91】H23(2011).7.21
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

《今金中学校全校道徳》
東日本大震災支援活動報告会

東日本大震災は、２０１１年（平成23年）３月３１日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波、及びその後の余震により引き起こされた、世界でも希な大規模地震災害です。



今金町からも岩手県山田町に６名の町職員が、宮城県石巻市へ消防援助隊として１名が派遣されたことから、６月９日（木）今金中学校体育館において５，６時間目を全校道徳として防災・災害教育の一環として報告会が開催されました。

また、同時に派遣された職員は、スキルアップ研修としても位置づけ、内容等が重複することのないよう、それぞれがテーマを設定し、パワーポイントを活用するなどの工夫をして発表してくれました。



〔発表テーマ・発表者〕

①檜山町村会職員派遣の概要＝伊藤　翔君
- 被災地役場の運営、救援物資の管理・整理
- ボランティアセンター協力
- 仮説住宅の建設状況　他

②宮城県石巻市緊急消防援助隊＝佐藤祐輔君
- 緊急消防援助隊ってなに？
- 緊急隊業務の内容
- 被害を受けた消防署・救急車

③ボランティアセンター＝水野耕輔君
- ボランティアセンターの開設
- 各避難所のニーズ調査
- 各避難所の様子、住民の声

④役場内勤務＝田中　崇君
- 町民課業務（死亡届けの処理）
- 役場庁内の様子
- 海沿いに面し、隣接する施設の被災状況
- 航空自衛隊によるフルート演奏

⑤派遣者の生活＝山田真也君
- 宿泊場所、食事について
- 入浴や業務外の生活について

⑥防災に関する意見交換会＝川崎敬介君
- 管内の派遣者が奥尻町に集結し、「東日本大震災に学ぶ」ことを共有
- 奥尻町の復興や防災の取り組み
- 津波館での現地研修

⑦今日のまとめ～ふるかえり～＝白岩政浩君
- 今日の目的をふりかえる
- 派遣者や被災者がおかれた状況
- 我々が派遣をとおして得たもの

報告終了後は、生徒からの質問や感想のほか教師感想や取材に来校された道新北檜山支局の広川支局長からも特別にコメントをいただき、貴重な報告会となりました。生徒会長からのお礼の言葉や何よりも生徒達の熱心な姿勢に発表者も緊張と感動の時間となりました。



平成23年度ニュージーランド
中学生派遣者15名が決定！！

８／４～１５（１１泊１２日）の日程でＮＺクライストチャーチに派遣される本年度の中学生が６／９の面接を経て決定し、出発にむけた事前研修がスタートしました。今回は、交流先も２月に大地震で被災し、復興の歩みを始めていることから、防災・災害教育をはじめ、命の大切さを学ぶ機会としても位置づけられています。引率には、今金中学校の校長、町教委の社会教育指導員があたり、ホームステイを中心としたバーンサイド高校との交流、クライストチャーチ市長の表敬訪問などが予定されています。



今回で２１年目を迎えた相互交流は、派遣者２４２名、受入者は２３４名となり、「小さな町の大きな国際交流」が推進されています。

委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、橘　宣雄教育委員長です。

『父を越えた日の記念すべきもの』

今年の誕生日で６６歳になる。ささいなことであるが、父を越えた日の事である。

父は、今金生まれであり、幼い頃から当時は雑魚（ざこ）釣りといわれていたヤマベ釣りの話をよく聞かされた。

今金のある川を一泊二日でヤマベ釣りをした話はこうであった。一つのポイントで最初に来るのは大型のやつ、ポイントごとに一匹を釣るとすぐ次のポイントへと移動をする。その釣り方をするとほぼ同じような良型ものを揃えることができる。ある程度釣ると処理し、流されないようにストックし、次に向かう。その日は、当然、野宿である。二日目は釣り下り、前日のものを回収しながら、また、同じように釣る。釣果は背負って帰る。囲炉裏で干され、昆布巻の具などになったそうだ。



父からヤマベ釣りを教わった記憶がはっきりと残る。小学三年生のとき、奥尻島でのことだが、父の学校の近くの川で初めて二人で釣りをした。釣り行くうちに、たまには釣れていたので、その面白さに浸りかけた頃、川の分岐に来た。なんと、お前は左へ行け、父さんはこっちに行く。熊はいないマムシもいないと聴かされてはいたが心細い。でも、小さな川の上流部ヤマベが逃げるのが見える、やっぱり竿だす。その帰り道、海が見え始めた頃、沖合はるかに黒いロート状の雲が見えた。あれは竜巻だったのだろう。

そんな記憶があるものだから、息子が小学生になった頃、岩魚釣りに連れて行った。見事な渓流で、当時の息子でも釣れるほどの魚影の濃い釣り場であった。

その後、お父さん、また行こうとの声は聞かれなかった。後で、お母さんに、こぼしていたそうだ。息子はえさの虫が大の苦手だった。

今はいない弟に聞いたことがあった、父さんは何歳まで釣りに行けたんだっけ。弟は、はっきりと言った。父さんは６５歳まで、やめた理由は川で転んだから。

今年の初めてのヤマベ釣りで、父の川釣りをやめた年を越えた。６月の下旬、川の水の状況が最高と思えるある日、３０数年通い続ける川に今年はじめて入った。多めの雨が降った二日後、まだ水温が低い時季であり、その日の天気予報と経験から、ゆっくりとした時間に出かけた。水の状態は、笹にごり、引き水で水温も予測通りやや低い、大物狙いで釣り針は大きめ、えさも２匹、おもりを付け沈めることにする。一投目で今日の状況がわかる。

来た、糸は大物を示す張りかた、竿を立てる、獲物の動きが糸と竿の感触でわかる、糸がキューンと鳴る、やりとりし手元に手繰り寄せ、頭を石でコンと絞める。この日は、こんなことを何度も繰り返すことができた。

重さを感じる釣果を処理する中で、とんでもないものを見つけた。獲物の中に抱卵ヤマベ（メス）がいた。下流にダムなどのない川では非常に珍しいものであり、ほぼ４０年に渡るこの釣りで２匹目のことであった。



なんとなく計算してみたが、少なくとも数千匹に１匹のものを、この日は釣上げたことになる。２５センチを超えたこの貴重なものを、近くに住む孫が、あっさりと持って帰り、感想はオス（ヤマベ）より柔らかくておいしかったと言った。

父から四世代目の孫が、ヤマベ釣りをしたいと言い出すだろうか？

